



No. 74

発行人 神山 裕也  
発行所・事務局 社団法人千葉県社会福祉士会  
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-3  
千葉県社会福祉センター 4階  
TEL043-238-2866  
FAX043-238-2867  
http://www.cswchiba.com/  
E-mail: office@cswhiba.com  
※ 点と線はメール配信でも読めます!



テレビ報道などで、「無縁社会」という言葉を頻繁に耳にする。一人暮らしの高齢者は、30年間で5倍に増加。誰にも気づかれずに亡くなる孤独死はこの10年で5倍以上増加。遺体も引き取られず無縁のまま亡くなる人は年間3万2千人。高齢者の自殺者のうち7割以上は同居家族がいたが孤立していた。血縁や地縁における支え合いの機能が弱くなっており、様々な問題の背景となっている。

今回の特集では、「無縁社会」に立ち向かう社会福祉士の取り組みを紹介する。我々が持つ専門技術をいかにして無縁社会の闇を照らす光にするか考えたい。

- 1 特集 無縁社会の闇を照らせ！
  - ①血縁・地縁の結びつきを活かした地域包括の取り組み
  - ②個別ケースの積み上げで築いたネットワーク
  - ③縁の再生に取り組む社会福祉協議会
  - ④社会福祉士会が取り組む一人暮らし高齢者を見守る仕組みづくり
- 6 「福祉職人を支える千葉県社会福祉士会」
- 9 未来の社会福祉士をつくるために～研修委員会の活動から
- 9 コラム～新しい公益法人ってなんだろう？(公益目的事業財産編)
- 10 地域集會～つながるネットワーク 長生・夷隅地区
- 11 社会福祉士の「わ」
- 12 トピックス～人口過疎地域のコミュニティが抱える問題
- 13 三団体リレーコラム「4' 11" って？」
- 14 事務局だより

特集記事「無縁社会」の闇を照らせ！

# 特集記事 「無縁社会」の闇を照らせ！

## ① 血縁・地縁の結びつきを生かした地域包括の取り組み

佐倉市南部地域包括支援センター  
社会福祉士 島田 将太  
面積が最も広く人口が最も少ない地域

佐倉市は県北部に位置し、千葉市・八千代市・八街市などと隣接している。人口約一七万人で、佐倉城址公園や国立歴史民族博物館、武家屋敷群などが有名である。

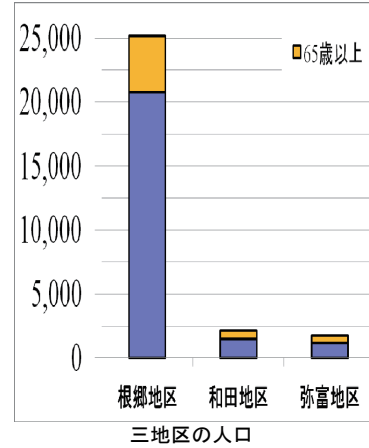


佐倉市南部地域包括 島田さん



北部・北西部に大型ショッピングセンターや高層マンションが立ち並び、人口が集中している。南部は、稲作や大和芋などの農業が盛んな農村地区である。  
地域包括支援センターは五か所に分かれている。私たちの担当する「南部地域」は、市の半分ほどの面積を占めるが、人口は三万人弱と少なく、もともと人口密度の低い地域である。

**圏域内の大きな地域差**  
この「南部地域」は、さらに三つの地区「根郷(ねこう)・和田(わだ)・弥富(やとみ)」に分かれるのだが、この三地区間に大きな違いがある。三地区の人口をグラフにするると左図のようになる。



南部地域の人口三万人のうち、二万五千人は根郷地区で、和田・弥富地区はそれぞれ二千人程となっている。背景として、根郷地区では都市化が進み人口も増加傾向にあるが、和田・弥富地区は農村地区で、人口減少・高齢化が進んでいる。当センターは根郷地区にあるため、農村地区からの相談は待っていてもほとんどないのが現状であり、センターから出向いて

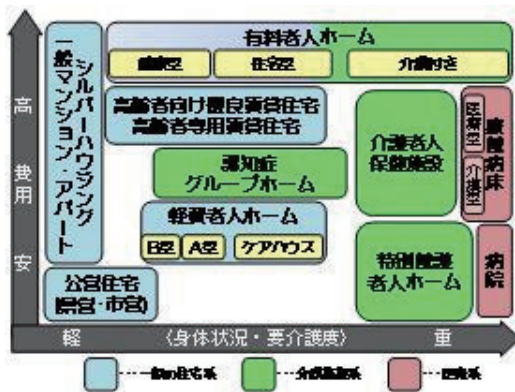
の取り組みがメインとなる。  
今回は、その農村地区での取り組みを紹介させていただきたいと思う。

### 農村地区で出前説明会

農村地区では繋がりが非常に強く、顔の見える関係を持っている。それゆえ、住民に問題が生じても集落内だけで解決しようとして、介護保険や民間サービスを知らず、状態を悪化させてしまったりする。そういった意味で、集落の環境的にも住民の意識的にも、外部との繋がりが薄いように思われる。また、血縁・地縁で強く結びついている集団であるため、集落のルールを守れない人や移住者などが地域の輪からはずれてしまいう面がある。

こういったことを防ぐため、各集落に出向いて「介護保険」や「認知症」、「地域での支え合い」などについて説明し、制度の理解や見守り等の協力をお願いしている。  
また最近では、農村地域でも老夫婦・独居世帯が増えている。社会資源が少ない地域で古い家に住

特集記事「無縁社会」の闇を照らせ！



出前説明会資料 例2

**高齢者の住まいは 注意が必要！！**

ここ10年ほどで高齢者の住まいは急速に拡大しています。

いろいろな施設がありすぎて選びにくい。トラブルが増加している。

出前説明会資料 例1

む高齢者は、一気に生活が困難になってくることが多く、施設入所や住み替えについての相談も出てくるようになった。そういったことから、介護施設や高齢者を対象とした住宅(ケアハウス、高齢者専

用賃貸住宅、高齢者向け優良賃貸住宅、高齢者向け住宅等)などの「高齢者の住まい」について、複雑な仕組みや情報を収集・整理し、実際のサービス内容や利用方法、料金、注意すべき点などについて、わかりやすく説明する場も作っている。

「地域マップ作り」で強い繋がりを有効活用

出前説明会とは別に、より具体的に地域のことを把握し支援するため、住民と一緒に「地域マップ」の作成を行っている。集落のこともよく把握している方に数名集まってもらい、集落の白地図を広げて一軒一軒「どういいう人が住んでいるのか」「仲の良い人は誰か」「困っていることはないか」等を聞き書き込んでいく。住民と一緒に把握して、必要な見守りや支援を行っていくという手法である。こういった地域は人間関係も複雑に絡んでいるので、「誰にお願いするのか」「誰に伝えるのか」などを慎重に検討する必要がある。

集落では顔の見える強い関係があるので、ほぼすべての家の情報が揃えられ、そうすると誰とも繋がっていない家や支援が必要と

思われる人物などを把握することが出来る。また住民自身にとっても、改めて地元の課題や利用できないサービスを知ることができ、お互いに良い効果が得られている。

強い繋がりが顔の見える関係というものは、作ろうと思ってもなかなか作れるものではない。この貴重な繋がりを最大限活用し、集落内で周囲の人や社会資源から縁遠くなっている人たちを早期に把握できればと考えている。そして、そういった人たちへの支援や集落のあり方などについて、住民と一緒に考え、動いていけるような雰囲気を作っていければ、今ある強い繋がりはとても大きな力を発揮してくれると感じている。

② 個別ケースの積み上げで築いた ネットワーク

旭市地域包括支援センター  
社会福祉士 多田 幸子

当地域包括支援センターに勤務し、二年半が経過しました。当初

は一からの関係形成のため、関係機関や諸会議に出席し、顔や名前を覚えてもらう日々でした。現在においては個別ケースの積み上げでできたネットワークに支えられ、何とか相談援助活動を行っているといった状態です。時に「あ、あの時の！」と思わず声を上げてしまふような方が再びセンターを頼って相談に訪れることもあり、自身の励みにもなっています。

当センターで相談いただく事案には、社会や人と関係を断ち、地域で孤立したまま生活をされた方についてもお受けすることがあります。就職当初、無縁化問題は都心部だけではと正直思っていました。が、長閑な田園地帯で、人口流動が少なく、三世同居が比較的多い当市においても、この課題と直面しています。家族・親族がいない状況だけではなく、親族・知人が近くにいっても自ら関係を閉ざす方、過去の関係から関わりを拒まれている方、周囲の支援を受けることを望まない方など。実際関わってみると、そういった生き方を自ら選択した方だけでなく、選択せざるを得なかった方もおります。

相談においては、本人から直接

特集記事「無縁社会」の闇を照らせ!



旭市包括 多田さん

受けるものであれば介入も比較的にスムーズに行えますが、大半は福祉関係者や近所の方など第三者からの申し出で、周囲が対応に悩んだ果てに相談されることがほとんどです。まずは事実確認と思い訪問しても、初回で人的・物的サービスにつながることは稀で、具体的な方向性も示せないまま、わかる範囲の状況を確認して帰ってくるのがほとんどです。『この日は直接会えたり、食事・水分もきちんと摂れていた様だし……』と帰りの車内、自分の価値観の中で納得しようとしながらも、何だかすっきりしない気持ちのままセンターに戻ります。ひとまず腰を落ち着かせ、開始されるのがセンター内の「ああだ、こうだ」のプチケース検討会です。この夕方のひと時があつて、ケースと気持ちの整理ができていくのかもしれない。

また、ケースの中には何度か関係者と見守りを兼ね訪問している、「数軒先の人が気にかけてくれていた」「この商店から食べ物を購入している」などと本人に関する情報量が増え、本人と関わるネットワークを知り、驚かされることもあります。しかし、中には命に関わるような状態の方もおり、時間をかけることが許されるケースばかりではないのが実際です。そのような状況下で日々の対応に追われ、かつ経験も少なく思考も未熟な私であり、社会に対し「社会福祉士として何ができるか」とまで考えるに至らない状況です。ですが、まずは個人や地域の置かれた現実を受け止める力を養い、一つひとつのケースに丁寧に対応していくこと、そして地域の現状を広く発信していくこと、それが三年目を迎えた社会福祉士である自分に課せられた課題だと考えています。その中で自身やセンターの地道な活動が、地域や社会の見守りシステムづくりに結びついたらと願っています。今後もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

③ 縁の再生に取り組む  
社会福祉協議会

柏市社会福祉協議会

社会福祉士 高橋 史成

はじめて「無縁社会」を聞いた時、「縁」をつくっていく者として、受け入れたくない痛烈な言葉だった。その一方で、家族や地域と疎遠になり、無縁の中で生きていく方がいる現実も認めざるを得なかった。わたしの仕事は、まさにこれを解決することにあるが、「無縁社会」に対し、残念ながら秘策は持っていない。しかし、少なからず、無縁の中にいる一人でも多くの方が「縁の中で生きる」ことを願って、普段取り組んでいることについてふれてみたい。

無縁の状態にある方が、病気等により介護が必要になることは珍しいことではない。それに対して地域は無関心なのかというところ、そうではなく、誰かがその当事者のことを気にかけている場合は多い。ただ、当事者はその人の思いを知らないこともまた多い。ではなぜ、無縁になっていくのかという疑問になるが、そこには「他



柏市社協 高橋さん

人に迷惑をかけたくない」とか「余計なお世話はしない」という考えが少なからず影響している。実際に、周り縁を切っていた方が認知症になった後、地域住民に尋ねると「前から気になっていた」「何とかしなきゃと思ったけど……」といった声が返ってくる。

私はそんな時、引き続き気にかけてもらうことや近所の協力を得られるようお願いする。この時、断る人はほとんどいない。むしろ、これまで以上に当事者のことを気にかけて、声をかけてくれる。それが、地域の縁に囲まれた生活の第一歩になっている。

このような流れはどこにでもあふる事例だが「地域づくり」にはとても大きなチャンスになる。気になっていたことが関わりを持つことで、他人事ではなく、地域の課題となつて、具体的な活動になる。そのように生まれる活動は、地域に根づき、継続性のあるものになる。私たちは、地域の活性化を考える

特集記事「無縁社会」の闇を照らせ!

時「新しい活動をつくること」だと考えてしまいがちである。しかし、その多くは「活動ありき」であり、そこに住民自身の「気づき」や「考え」といったものは置き去りにされ、結果的に継続性のない活動になっている。

様々な場所で生まれ育った人々で構成する地域が多い現代においては、個人情報保護など難しい問題はあるものの、やはり、その地域で起きていることを知り、感じ、考えられるような地域づくりが欠かせない。

そんなことから私は普段「個の視点なしに地域づくりはできない」「地域の視点なしに個の支援はできない」ということを肝に銘じながら業務にあたっている。

「無縁」という社会の大きな波に対し「縁をつくる」「縁を再生すること」は容易ではないが、微力でも「縁」を求めて、引き続き地域づくりをしていきたい。



④ 社会福祉士会が取り組む  
一人暮らし高齢者を  
見守る仕組みづくり

み・まもくれ幸町  
社会福祉士 久保 純子

「み・まもくれ幸町」(以下、「み・まもくれ」と略します)では、対象地域内に住んでいる一人暮らしの高齢者の自宅を定期的に訪問し、安否や体調の確認を行ったり、様々な相談を受けたりする見守り支援を行っています。民生委員や自治会・地域包括支援センターとも連絡を取り合い、少しずつではありますが地域の中での見守り支援の拠点として認知されてきているように感じます。

訪問先で高齢者の方と話をしていますと、「誰とも話をせずに一日が過ぎてしまうのがとても寂しい」とか、「家の中で倒れたとき誰も知らせる人がいない」といった、『つながり』が失われていることを実感する声が多く聞かれます。ご近所の方とも「挨拶だけはしているが、日常的に話をするのがない」、「隣の人がどういふ人か知らない」といっ

た声が多く、こうした状態が孤立感や不安感を増幅させているものと思われれます。

これらの孤立感や不安感を解消するため「み・まもくれ」で訪問による見守りを行っているのですが、これだけでは『つながり』というには不十分です。「み・まもくれ」とつながったことをきっかけにより多くの接点を作ること、何か困ったことがあれば誰かに相談できる、話し相手がいるなど、「私は『独り』じゃない」と安心して生活できるようにしていくことが必要ではないか、そのように感じています。そのためには、「み・まもくれ」が民生委員や地域包括支援センターなどとこれまで以上に連絡を密にし、「何かあったとき」の対応に備えるとともに、現在行っている訪問による見守りの活動を、地域の中にもっと広げていくための取り組みをしていこうと考えました。



み・まもれ久保さん

そこで「み・まもれ」と一緒に訪問活動を行う住民のボランティアを「安心協力員」という名称で組織しました。安心協力員が訪問することを了承いただいた高齢者の方の自宅を定期的に訪問し、顔を合わせて話をする、いわば「ご近所の茶飲み友達」的なつながりを作ることが目的です。もし、そこで体調の変化や相談したいことがあれば、安心協力員から「み・まもれ」に、さらには「み・まもれ」から民生委員や地域包括支援センター・行政などの専門機関へとつないでいくことによつて、より細やかな網の目で一人暮らし高齢者の生活支援ができるのではないかと考えています。

「み・まもれ」は自分たちだけで動くところではありません。地域の中で、地域の社会資源と一緒に動くことでその力が発揮されるところだと考えています。一緒に動くところはたくさんありますが、中でも地域住民の方々と動くということ「地域の力で地域を支える」という地域福祉の基本ともいえるものの基盤を作っていることではないかと思えます。

この「安心協力員」の取り組みを通じて、見守りが必要とする地域住民の方々に、見守りの目が届くようになっていけばと願い、取り組みを進めていきたいと考えています。

# 福祉職人を支える千葉県社会福祉士会

対人援助等業務を行うにあたり、どんなに経験を積んだ相談者でも「この場合どうしたらいいんだろう？」など、壁にぶつかることがあります。千葉県社会福祉士会では、そのような仲間の悩みに対して少しでも力になることができると、各委員会に分かれて活動を行っております。今号では、そのような中から「ばあとなあ千葉運営委員会」、「総合相談委員会」、「独立型社会福祉士委員会」の活動の一部を紹介いたします。

## 受任者支援「ばあとなあ千葉サポート」について

ばあとなあ千葉運営委員長

鈴木 勝英

「ばあとなあ千葉」も現在登録員数一二五人、準登録員数一二六人、受任者数九一人、受任件数約三〇〇件となり、いろいろな事案が出てきている。また、支部委託研修を平成二〇年度から今年度まで三回行い、新規

受任者も増えてきている。これまでの受任者支援体制としては年に二回の登録員・準登録員研修が定期的であり、これ以外に個別に対応していた。会員が独自に勉強会を開催している例もあるが地域的偏りがある。また、東京、神奈川で昨年か

た。

ここにおいて、受任者支援、登録員・準登録員の能力向上とタイムリーな相談の場として、毎月、テーマ毎の研修と、個別相談対応を行う「ばあとなあ千葉サポート」を、第三土曜日の午後一時三〇分〜三時三〇分まで以下の日程でトライアル開催することとなった。

- ・ 第一回 九月一日 (担当石山) 済み
- ・ 第二回一〇月一六日 (担当越川) 済み
- ・ 第三回一二月一八日 (担当未定)

第一回は二六人が参加し、「事実行為と法律行為について」をテーマとしてプレゼンテーションを行った後、参加者による意見交換を行った。意見交換は参加者同士の意見交換も含めて活発に行われた。この中で次

回の担当、テーマ「保証人、身元引受人について」が決まった。参加者による全員参加の意見交換ができ、従来の講義形態でない新しい形となった。

この三回のトライアルは、参加費無料、スタッフもボランティアであるが、今後正式設置の際には、参加料徴収等事業の予算化も検討する予定である。

## 対人援助職の相談できる場として

総合相談委員会

これは会員同士が職場の悩みなどを相談し合う機会として存在する事業です。一時期冬眠しており、復活を試みましたが現在も周知が徹底されず、やや冬眠傾向にあり、運営する側

福祉職人を支える千葉県社会福祉士会

としては反省する次第です。

実際、相談援助の現場で働いている方々は、一人職場や少ない構成での職場において業務を遂行されていると思われる。また対人援助では場合によって過度なストレスにさらされる事も多く、そのストレスを解消する場が無ければ、燃え尽き症候群の要因になってしまいます。私たちはそのような方々に向けて、話す場、相談できる場としてこの事業を運営しています。

相談の形は本来であれば対面によるものが一番効果的かと思われれます。しかしこの事業を運営するにあたり、マンパワー不足や場所の問題などサポート側の体制がなかなか整わない状況が出てきました。その結果、現在ではメールでの対応となっています。

メールというコミュニケーションツールは言葉のみのやり取りのため、もしかしたら相談者のご期待に添えない形になるかもしれません。サポート側の解釈の仕方が誤解を生じ

るかもしれません。しかし、私たち構成員は人生経験において、日々の業務活動において、研修において自己研鑽を重ね、誠心誠意をもって相談に対応いたします。

相談されたい方はお気軽に

chiba\_csw\_soudan@yahoo.co.jp

こちらのアドレスまでご連絡ください。多少の時間はいただきますが、こちらから返信を差し上げ、五回までのやり取りとして相談を進めさせていただきます。

お互いが社会福祉士です。個人情報については、言うまでもなくお互いの中で担保されています。安心してご相談いただければと思います。



**「みんなで頑張る・みんなで作ろう、独立型社会福祉士委員会！」**

独立型社会福祉士委員会

川島 隆太

(誉田グリーンヒルやさしさ社会福祉士事務所)

遡ること約一年五か月前の平成二十二年五月二三日、初めて独立型社会福祉士委員会の前身である、「千葉県独立型社会福祉士ネットワーク」を開きました。当初はまだ数名で、顔見知りを中心でした。しかも内容は「日頃の業務の悩み・不安」「仕事で困っていることについて」など、ほとんどがお互いの近況報告や愚痴(中にはいい話もありました)でした。ですが、開業をして間もなかった当時の私は、二か月に一回メンバーの方と会って話し合う、そ

れだけで救われていました。しかし、それにとどまらず「ただのお話会でなく、もつと会に直結した活動をしていこう！」といったメンバーの声に後押しされ、委員会化を目指しました。なぜ、ここであえてこの話を出したかというと、それが現在の活動での根底にあるからです。「仲間の存在を知り、独立し独りで行うのではなく、多くの方に支えられていることを常に感じる」ことです。そして、顔見知りの間だけでなく、この千葉県社会福祉士会の中で、独立事務所を開業している方に限らず「これから独立をしたいきたい！」「どうすればいいか分からない！」「どんな風に行っているのかを知りたい！」と言った方と出会い、サポートをしていきたい。それが現在の活動につながっているといえます。

前回の委員会(平成二十二年八月二一日)の参加者は二五名になりました。独立型社会福祉士活動養成部会の内容としては、二名の方から、現在までの経過

福祉職人を支える千葉県社会福祉士会

報告や事業計画について発表がありました。事業計画は独立をする上で必須になるものです。発表してくださった方は、昨年から会に参加して下さっていただいた方で、ご自身の将来的に目指す事業について、自分の強み・弱みを含め、目標や課題を含め分析し、その結果を発表してくださいました。これから独立を考えている方には非常に参考になる内容でした。前回は、ここで出た内容についての質問事項等、メンバー内で回答できるところは回答し、それ以外は、改めて次の研修につなげていくという形を取りました。また、メンバーの中の一人にメーリングリストも作ってもらったこと、後日回答できるようにする等の工夫や意見交換・連絡事項が行える場ができました。今後は意見交換をもっと活発にしなが、不明な点や疑問点については、お互いに勉強し合っていきたいと思っています。

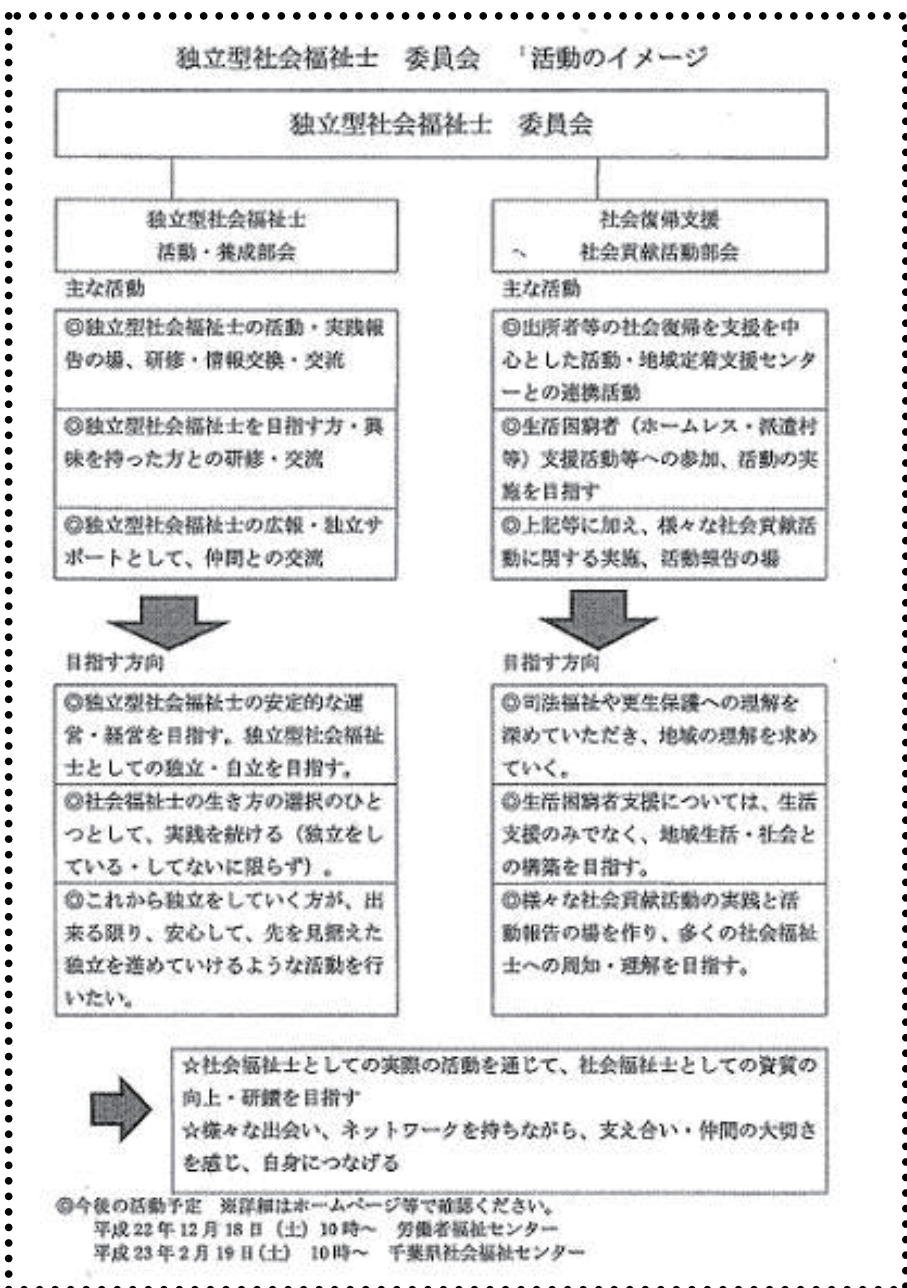
一方で、社会復帰支援・社会貢献活動の方も、着実に活動が

進められています。部会長を中心として、ホームレス支援活動への参加や、一〇月一日に発足した、地域生活定着支援センターのアピール活動を継続しております。また、上記同様にもーリングリスト等での交流も続いております。

今後の課題は「もし、千葉市内等でホームレス支援活動を行う場合、どれだけの参加者・協力者が募れるか」ということです。やはり、仕事等を持ちながらの活動では限界があるのだから、自由に活動ができるような方がいれば非常に助かります。

また、興味をお示しの方がいらつしやいましたら、社会福祉士会事務局までご連絡をお願い申し上げます。

お問合せ先  
 千葉県社会福祉士会事務局  
 TEL 043-238-2866  
 FAX 043-238-2867  
 メールアドレス office@cswhiba.com





## 未来の社会福祉士をつくるために、研修委員会への活動から

研修委員会 研修啓発部会

浅見 雅人

千葉県社会福祉士会では、長年に渡って継続的に社会福祉士国家試験受験対策に取り組みで参りました。紙面をお読みの会員の皆様の中でも受講をして合格を勝ち得て現場で活躍されている方々が数多くいらっしゃることと思います。

研修委員会では、啓発を目的に研修啓発部会がその役割を担い、この事業を継続しています。平成二二年度においては、前年度からスタートした株式会社ジェイシー教育研究所との契約事業として、ジェイシー教育研究所が運営するインターネット上の受験対策システム「赤マル福祉」において模擬試験問題・解説を年二回作成し、さらに国

家試験終了後には出題された問題の講評と出題内容の分析までを担っています。長年対策講座で培ったノウハウと会員講師の方々の確かつ最新の技術と知識を発揮していただくことで、千葉県の受験者に限らず全国の受験者に質の高い受験対策を提供していくことが可能になりました。

また「赤マル福祉」とは別に社会福祉士国家試験受験対策として、県内大学へ直接出向いての対策講座を開講しています。講座では各科目のエキスパートが活きた講義を提供しています。学生さんからは、登壇する会員の姿が「将来像」となり得るためモチベーションアップに繋がったという感想もいただきました。

職能団体である千葉県社会福祉士会が啓発活動として社会福祉士国家試験受験対策講座を開講していること、社会福祉士として現場に出た後に、基礎研修からスタートする生涯研修を提供していることは、団体としての大きな意義を持つていることと考えています。

## コラム 「新しい『公益法人制度』って、なんだろう？」(公益目的事業財産編)

今回は、公益社団・財団法人に移行した際に、法人運営上のキーワードとなる「公益目的事業財産」について取り上げましょう。

「公益目的事業財産」とは、その名の通り公益目的のために消費されるべき財産をいいます。分かりやすい例としては公益目的事業を実施するために受けた寄附金や補助金が挙げられます。また、従来の公益法人が公益社団・財団法人に移行する際に、公益目的事業のために使用する財産(建物、設備、金融資産等)も公益目的事業財産となります。

この他、法人が行う商業的なセミナーやイベントなど「収益事業」で上げる収益や、会員限定の研修会や共同広告など「公益目的事業」ではない「共益事業」により得られる収益の、それぞれ半分以上が「公益目的事業財産」となります。

ちなみに、新しい制度では「公益」と「共益」は明確に分けられています。

「公益目的事業財産」は、法人が公益社団・財団法人に移行した後、万が一認定取り消しとなり一般社団・財団法人になった場合には、その残額を他の公益的団体や国・地方公共団体等へ贈与されることとなります。公益のために集めた財産は、それを誰が集めたかに関わらず最後まで公益のために使われることが求められているのです。

移行後に認定取り消しとなるのは公益事業の遂行が一定の割合以上できなかつたり、公益社団・財団法人としての条件をクリアできなかったりする場合ですが、法人自身が希望して公益社団・財団法人から一般社団・財団法人に再度移行した場合でも、元々所有していた財産や設備等が「公益目的事業財産」と判断されるため、他団体への贈与となります。移行に際してはこの点についても知っておく必要があるでしょう。

出典：『民による公益の増進を指して』公益認定等委員会事務局編、平成二〇年五月

# 地域集会 ～つながるネットワーク



## 長生・夷隅地区

世話人 洪沢 茂

昨年度から地域集会をリニューアルして、定期的な学習会を行っています。長生・夷隅地区に在勤在任の社会福祉士は四〇名程度。毎回半数程の方の参加をいただいて開催しています。装いを改めるために地区の会員の皆さんにアンケート調査を行った後「市町村の福祉行政について」、「児童相談所での児童虐待への取り組みについて」のテーマで二回の地域集会を開催しました。

ただき、質疑と意見交換を行いました。

地域包括支援センターについては、高齢者介護の中核として多様な役割を期待されている中で、一般的に様々な評価がされ、介護分野で働いている人から「活動の様子が見えない」と言われることもあるようですが、当地のセンターは元気で、精力的な活動をしています。増加する介護予防サービス計画の作成に地域のケアマネジャーの協力を仰ぎながら奮闘し、虐待ケースの対応に日々追われながら、地域の課題をしっかりと認識して、見通しを持った着実な仕事をしていることがよくわかりました。参加した他地域の地域包括支援センターの方からも地域の特性に応じた活動のあり方の発言を多数いただきました。

た。一生懸命頑張っている仲間の話を聞くことで元気になる、やる気が出ます。

昨今の福祉業界は連携・ネットワークを構築することを重視し、沢山の会議や委員会が地域で開催されています。顔が見える関係を築き、ネットワーキングを構築することはとても良いことだと思いますが、一方で危うい側面を持つていることに注意することが必要だと僕は思っています。サービスの提供や支援を細分化して分担することで、本人の暮らしが分断化されてしまうことになっていないでしょうか。役割を譲り合い（押しつけ合い？）責任の所在が不明瞭になっていないでしょうか。一人の人の生活を誰が丸ごと抱えるのでしょうか。それをご本人に分

かりやすく伝えることができているでしょうか。

様々な立場で関わる私たちそれぞれが、ご本人の暮らし丸ごとつき合う視点と姿勢を持つことが必要だと思います。それぞれの職責によって自立的にご本人とつき合うこと、一緒に活動する仲間の立場や役割をしっかりと認識することも必要です。

志を同じくする仲間としての社会福祉士の地域集会で、それぞれの実践を報告し、考えを伝え合うことが分業の弊害を霧散させることにつながるのではないかと期待しています。

### 広報部会からのお知らせ

「広報部会からのお知らせ」は、本来『点と線』の紙面上に掲載するのですが、今回のみ別紙で特集を組んでおります。福祉川柳・ほっこりエピソードの応募用紙もありますので皆様、応募どしどし応募ください。

## 社会福祉士の「わ」



山口 定之さん

山口 定之

高校二年生の頃、同級生だった友人と進路の話をしていた時、その友人は突然手話サークルに通っているということを言い出した。将来、養護学校(特別支援学校)の先生になるための勉強をしたいのだという。彼からそのような雰囲気を感じたことはなかったため、いつからそんなことを考えるようになったのか不思議だった。友人から手話の話の話を聞いて自分は、世の中に障害を持って

生まれてくる人たちがいることを初めて考えた。自分も小さい頃から片耳が難聴ではあったのだが、今の自分に必要なのはそういう人たちへの理解ではないかと思うようになった。そうして高校卒業後の進路の選択肢に、社会福祉のことも考えるようになった。一番ケ瀬康子先生の福祉入門書などを買って読んでみたが、日本の福祉は先進国に比べて遅れているということしか分からなかった。不安な気持ちいっぱい状態で飛び込んだ福祉の仕事だったが、慣れてきた頃からは利用者の方々との出会いがかけがえのない自分の財産になっていることを感じている。介護職員の待遇改善が話題になっている昨今だが、その頃(昭和六〇年頃)は、この仕事であれば給料が安いのは当然のことと受け止めていた。皆もそ

れを承知で働いていたように思う。それでもこの仕事の魅力というか魔力のようなものに取りつかれて、有給休暇も消化せず深夜でも休日でも呼び出しがあれば職場に駆けつけていた。

社会福祉士会に入会したのは資格を取得した平成五年の翌年頃だったと思う。その頃は高齢者分野で働いていたのだが、児童から高齢者まで様々な方面で活躍している先輩たちから学び、視野を広げたいとの思いが強かった。

その一方で、社会福祉士の専門性はどこにあるのかという問いを、仕事の中で、あるいは自分自身に対して常にどこかで意識していたようにも感じている。自分としては、資格を取る前と取った後で何か仕事ぶりに変化があったわけでもなく、専門性が急に出せるようになったわけでもなかった。そ

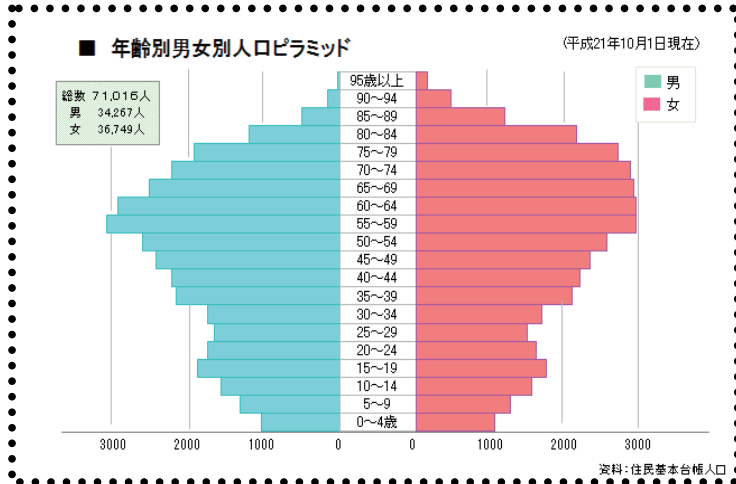
のような自身の経験を踏まえると、よく言われることだが、資格をとることがゴールではない。むしろ資格を取るということは、社会福祉士として、その後の仕事の仕方や自分自身のあり方が改めて問われ始める、そのスタートに立ったと言える。

ところで、自分には社会福祉の仕事を通じて解き明かしたいと思っている一つのテーマがある。それは、不謹慎で身勝手なことかもしれないが、意思の疎通が困難な重度の障害を持つた人たちが、生き、生活していくことの意味を考えると、いうものだ。おそらく現代の競争社会の中では通用しない「その人が社会の中に存在していることの価値」というものを、競争社会とは異なる視点からみつけてみたいと思っている。その答えが見つかると、自分はこの仕事を続けていきたい。

## 社会福祉士の「わ」

トピックス～人口過疎地域のコミュニティが抱える問題

トピックス～人口過疎地域のコミュニティが抱える問題



特別養護老人ホームさざんか園  
副施設長 五十嵐 伸光  
私がこのテーマをとり上げた理由の一つに、「銚子市立総合病院の診療休止問題」が全国に報道されたことが挙げられます。私はこの問題を人口減少並びに

コミュニティの視点で改めて捉え直し、地域の置かれていた現状についても一度考えてみたいと思います。  
報道では、全国各地での医師不足とこの問題をからめて、診察を受けたい方々が行き場を失い、地域医療が崩壊するというニュアンスで伝えられてきました。しかし銚子市の場合については、地域の救急医療体制の整備さえきちんとしていけば、仮に当該病院が廃止になったとしても大きな問題にはならなかったと考えています。

なぜかということについては、銚子市の人口動態から鑑みたいと思います。  
今年一〇月一日現在の銚子市の人口は六九、九五四人です。ここ一年の間で一千人、一〇年間で一〇万人の減少がみられています。ここで、上の銚子市における人口ピラミッドの表を参照して下さい。年間一千名の規模で進んでいる人口減少の内訳としては、自然減少が五百人程度で社会動態による減少も五百人程度あります。自然減少の中では高齢者の死亡が圧倒的に多く、社会動態では大学進学や就職の無いことからの転出が多い現状です。その結果、高齢者から若い世代を通じて人口減少が進み、人口密度が下がってきておられます。高齢化率（今年九月で二九・〇三％）についても銚子市の人口が一番多い世代の五五歳から六四歳の方々が上に上がってきまうので、ここ一〇年で急激に上がってくることで予測されます。

その銚子市には当該病院の他に二つの総合病院と二つの一般病院、そして医院や診療所があります。今後減少していく人口の中で、救急の体制さえしっかりとしていれば、十分に対応できるのではないかと思えるのです。次にコミュニティの問題についてですが、これは人口減少と併走するように現れてきています。コミュニティの中には空き家が多くなり、場所によってはコミュニティの機能が希薄になつていきます。そして公共交通機関やスーパー等の小売業者が撤退ないし縮小し「買い物難民」と呼ばれる方々が出現するようになっていきます。また、一〇歳未満の人口が急激に減少していることから小学校から高校に至るまで統廃合の議論がなされるまで統廃合の議論がなされ、現在までに高校は五校あったものが三校となり、小学校も一校減少してきます。今後もこのような統廃合は進められていくでしょう。二〇代から四〇代の税金を払い行政を支えている人口が少ない現状で、行政による福祉サービスはぎりぎりまで切り詰められ、それらが必要としていた方々は最低限の福祉サービスのの中で生活を強いられることとなります。そして近い将来、「限界集落」という影に覆われることになるように思えてなりません。  
話は市立総合病院のことに戻りますが、このようなコミュニティの中で当該病院における診

三団体リレーコラム「4' 11" って?」

療休止の最大の問題として、入院患者二〇〇名、通院患者一、二〇〇名とも言われていた精神科の休止についての対応がなされなかったことが挙げられます。現在は、結果的に千葉県並びに千葉大学の支援のもと精神保健福祉士等一部の元職員の献身的な努力のお陰で診療所が開設され、「銚子（ころくりニック）」として約一、三〇〇名の診療を行っております。もし、こうした支援がなく、地域社会に治療の場を与えられない多くの精神疾患をもった方々が取り残されたとしたら、希薄になってきているコミュニティでは支えていけなかっただろうと、本当に怖い現実があったわけですね。

以上、思いっくまに述べてきました。医療・福祉・教育、そして行きつくところは現在の生活が継続できるかという死活問題です。今回それぞれについて深く洞察することはできませんでしたが、人口減少が起きているということは本当に大変な生活課題を我々に投げかけています。私たち専門職として、今何をすべきか、今何ができるか、改め

て考える時期ではないでしょうか。

三団体合同リレー  
「4' 11" ｵﾌﾟｰ」

千葉県精神保健福祉士 (PSW) 協会  
副会長 渡邊 哲也

私たち千葉県精神保健福祉士 (PSW) 協会の前身である千葉県 PSW 研究協議会は、一九七三年に発足しました。以後一九九二年に千葉県精神医学ソーシャルワーカー研究協議会に名称変更を経て、二〇〇〇年から、現在の千葉県精神保健福祉士 (PSW) 協会として活動を続けております。現在の会員数は四三六名です (二〇〇六年には (社) 日本精神保健福祉士協会 千葉県支部が誕生して、その内の支部会員数は二五七名) も。これからは「千葉県ソーシャルワーカー三団体協議会」の協力

を得ながら、各種研修会の企画、社会へのソーシャルアクションを積極的に発信していきたいと思っております。ぜひ、皆様のご協力をお願いいたします。

表題の数字は、一九九六年六月にリリースされたザ・ハイロウズの「相談天国」二五一秒の四分一秒です。この曲がリリースされた前年の一九九五年七月に千葉県で PSW の全国大会が行われました (平成七年七月七日で、とてもラッキーな日に開催されました)。みんなで作り上げた全国大会でしたので、それ以降の会員の連帯感の高まりを見せました。千葉県精神保健福祉士協会に脂が乗ったところ、



千葉県精神保健福祉士協会  
副会長 渡邊さん

研修会などで会員が集まると、どこからともなく、何のゆかりも無いこの曲が必ず毎回かかります (もちろん研修会の後の懇親会ですよ)。そしてこの二五一秒間、スタンディングオベーションで「相談しよう! そうしよう!」と絶叫し続けるのです。最近では頭を振って踊りまくった当時の会員は、年齢が徐々に壮年期へと移行した為、今後に入会される新人に期待し、バトンを譲りたいと思います (今回の掲載者である私自身はまだまだ負けるわけにはいかないと感じておりますが...)。

現在、県内の会員は病院、施設、教育、行政などさまざまな分野で活躍しています。障害者自立支援法、医療観察法における精神保健参与員など、各々の会員がさまざまなフィールドで職務を担っています。会員相互の連帯感がとても強い千葉県ですから、みんなで支え合い、対象者のニーズに応えられる精神保健福祉士 (PSW) を私たちは目指しています。

**事務局便り**

いつの間にか吐く息が白くなり、こたつや温かいお鍋が恋しい季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、来年3月には平成22年度第2回総会が開催される予定です。多くの会員の皆様に会の活動をご理解頂ければと思いますので、資料が届きましたら内容をご確認の上、出欠確認表および委任状（欠席の場合）のご提出をお願いいたします。

向寒のみぎり、お風邪など召されませんよう、くれぐれもご注意くださいませ。

**【12月から3月の研修等・行事のお知らせ（予定）】**

12月18日（土） ばあとなあ千葉サポート

2月 5日（土） 第3回ばあとなあ登録員・準登録員研修

2月14日（月） 2010社会福祉士実習指導者講習会

～15日（火） ※ お申込受付は終了しております

3月19日（土） 平成22年度第2回総会

※ その他研修等決定いたしましたらホームページに随時掲載いたしますので、是非チェックしてみてください。

千葉県社会福祉士会 ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

**ようこそ！千葉県社会福祉士会へ**

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
栗山 宣之	千葉市	第三ケアホーム グッドラック	島田 将太	四街道市	佐倉市南部地域包括支援センター
清宮 麻未	千葉市		瀧澤 孝悦	我孫子市	あずみ苑井野
阿部 里子	千葉市	千葉県千葉リハビリテーションセンター	大江 恵子	我孫子市	
中嶋 紀衣	千葉市	身体障害者療護施設 若葉泉の里	染野 享子	我孫子市	
甲賀 亜紀子	千葉市	土気いきいきセンター	中谷 久司	流山市	
蓮池 宏美	船橋市		宮本 麻子	成田市	成田市社会福祉協議会
橋本 恵子	船橋市		鈴木 友美	袖ヶ浦市	袖ヶ浦菜の花苑
田久保 康司	船橋市	グループホームきらら都町	柴崎 慶子	袖ヶ浦市	
菅原 由美子	八千代市	船橋公共職業安定所	原田 隆	君津市	(有)なのはなメイト
椎名 美代子	八千代市	特定非営利活動法人ユーアイやちよ	小手 恵	山武市	
岡田 勲	松戸市		廣田 絵美	芝山町	
東脇 ゆう子	松戸市	松戸ナーシングヴィラ春の風	西崎 直美	鴨川市	特別養護老人ホーム千倉苑
橋本 めぐみ	松戸市	社会福祉法人彩会 喜楽家	中村 志貴子	南房総市	赤門整形外科内科
岸本 悦子	松戸市	(株)いきいき舎	五十嵐 逸美		かにた婦人の村
小林 靖子	佐倉市	東邦大学医療センター佐倉病院	船田 伸二		社会福祉法人ワナーホーム
渡部 功雄	柏市		齋藤 玲		北習志野花輪病院
田中 敦子	柏市	いぶき療護苑	岸 秀美		
和田 太	柏市	アイシア株式会社	手塚 ひとみ		
向後 鶴代	柏市	沼南地域包括支援センター	樋口 恵理子		
小野 典子	印西市	特別養護老人ホームつくし野荘			

※ 正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（敬称省略）

**平成22年10月末現在の会員数**

**正会員 1,183名、準会員 44名、賛助会員 11名 合計 1,238名**